

町では、令和4年度から10年計画で新たな町史『新編 一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和39年（1964）に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは調査活動の様子を紹介していきます。今回は戦争関係の資料調査を紹介します。

広報4月号で、本土決戦準備戦跡調査を紹介しました。2025年は戦後80年の節目の年といついで、そのほかにも町内に残された石造物、町が所蔵する戦争関係資料の調査なども行っています。これらの調査は令和7年度中に発行予定の『一宮町歴史叢書第3集 一宮町の戦争（仮題）』に成果を掲載予定です。今回は古文書整理の一環で見つかった戦争関係資料を紹介します。

近年多くの古文書や民具などの歴史資料が町に寄贈・寄託され、順次整理・目録作成を進めています。「戦争関係資料」としてまとめて預けられることはなく、「古いもの」として段ボール箱などに入った資料の中を一点一点整理するうちに、戦争関係資料を見つかる、まさに宝探しのよう作業を経て、資料が日の目を浴びることとなります。ここではその作業の中で見つかった戦争関係資料の一部を紹介します。

昨年、メディアでも取り上げていただきましたが、とある家の資料の中から、①「防空勤務報告」（昭和20年）、②「戦時駐屯部隊名簿」（昭和19年〜20年）という史料が見つかりました。

その一方、この日誌は勤務者が交代で記入しており、ある勤務者は欠席日数が多い人間がいることに対し

りました。

①は一宮町警防団による防空監視の日誌で、空襲警報の発令状況などが記されています。一宮地域は空襲は受けなかったといわれていますが、緊迫した当時の世相がうかがえます。8月15日の日本のポツダム宣言受諾後もしばらく監視は続けられたようで、日誌は8月20日に終了しています。最後の記述は赤字で「通知ニヨリ燈火管制ヲ解カル 尚警防団本部ノ勤務モ同時ニ終了（原文ママ）」。

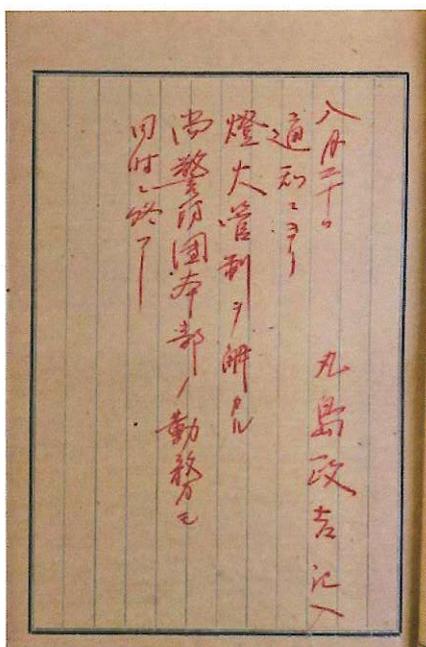
この一文から、皆さんは何を感じてでしょうか。

このように資料を一点一点細かく読み解いていき、積み重なって作られた文章が、皆さんが目にする「歴史」となります。こういった地道な活動が『新編 一宮町史』を形作っていきます。（学芸員・江澤一樹）

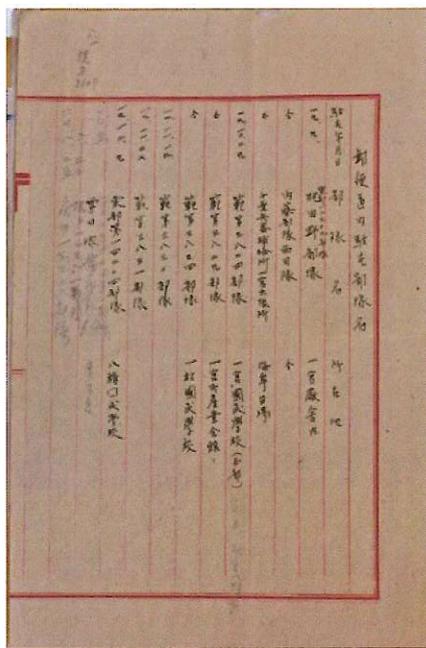
「常習不参者ヲ如何ニスベキヤ」と大きく記載しています。当該人物が日誌を見ることを想定して、あえて不満を書いているのでしょうか。このようなところに古文書をつぶさに読み解く面白さを感じます。

つづいて②の史料。一宮郵便局の郵便配達区内に駐屯する部隊が、いつ、どこに配属されたのかが記されています。風船爆弾の打ち上げに関わった部隊、本土決戦に備えて配備された部隊などの様子をうかがい知ることができそうです。

このように資料を一点一点細かく読み解いていき、積み重なって作られた文章が、皆さんが目にする「歴史」となります。こういった地道な活動が『新編 一宮町史』を形作っていきます。（学芸員・江澤一樹）



▲①「防空勤務報告」の巻末



▲②「戦時駐屯部隊名簿」